

近江八幡へようこそ

近江八幡の歴史的な地区は八幡山の南側に位置する旧市街を中心とする。16 世紀後半、山頂に城が築かれたことをきっかけに、商業の中心地として発展してきた。山と町の間には、かつて町と琵琶湖を結ぶ交通の要所であった八幡堀がある。この堀の南側には、江戸時代、近江八幡の産物を全国に売りさばき、繁栄をもたらした商人たちの屋敷や土蔵が点在している。所々、その伝統的な建物の間には 20 世紀の洋風建築が建ち、その多くがアメリカ出身の建築家であり宣教師でもあったウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880-1964）の手によるもの。ヴォーリズは近江八幡に定住し、地域の生活に広く貢献したことで知られている。コンパクトな旧市街は碁盤の目のように整然と並んでおり、歩いて散策しやすい。